平成　24　年度

# 1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 4270300033 | | |
| 法人名 | 有限会社　グループホームふるさとの家 | | |
| 事業所名 | グループホームふるさとの家「城下」 | ユニット名 | |
| 所在地 | 長崎県島原市新湊二丁目丙1740-2番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年12月14日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年3月1日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 一般財団法人　福祉サービス評価機構 |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅南4-3-1　博多いわいビル2F |
| 訪問調査日 | 平成25年1月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

外出を毎日行うことで、施設にこもることなく季節感を感じていただいております。また各利用者の生活感を生かし、出来ることは何でも手伝って頂き達成感を味わっていただいたり人の為になっているんだという思いや笑顔を大切に職員一丸となってケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設から15年を迎える“グループホームふるさとの家「城下」”は、消防法の関係で長年住み慣れた場所から“移転”と言う転機を迎えた。移転前に何回か利用者の方と新しい住まいに行き、ご自分でお部屋を選んで頂く等の移転準備を行った事もあり、大きな混乱もなく、23年4月から新居での生活が始められている。日々の生活では”食と水“にこだわり、3日に1回は利用者も一緒に舞岳にお水を汲みに出かけている。地域の方から「もうそろそろ採りに来られませんか？」と声をかけて頂き、人参やかぼちゃ、ミカンなどの収穫をさせて頂く事も多い。“木から梅や柿をちぎる”、“らっきょうは土から”と言う代表の思いは日常の中で“当たり前”の行動として根付いており、季節に応じた収穫作業や干し柿作り、梅干し作りなどの“お仕事”を利用者の方が担って下さっている。リビングでは“島原の子守唄”の大合唱が始まり、雨の日も風の日も四季折々の風景を見ながらドライブや買い物を楽しまれている。下肢筋力を鍛える運動も取り入れ、トイレの時にスムーズに立つ事ができるようにするなど、“普通に”暮らすための地道な取り組みが今日も続けられている。

## Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | ○ | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 普通の家庭の暮らしを自分らしく毎日を心安らかに笑顔で暮らしていただけるよう全職員で実践している。 | 「老いても障害を持っても　当たり前に　自分らしく　普通に暮らしたい」と言う理念のもと、以前されておられた家事などを“当たり前に”続けており、“自分らしく”草取りや編み物などをされている。“普通に暮らしたい”と言う事で、地域の花見やお祭り、鬼火などにも出かけ、昔の事を思い出す機会にもなっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方と挨拶を交わしたり、回覧版を配ったり、おすそ分けをしたりと日常的に交流している。 | 安中祭りや鬼火にも参加し、婦人会手作りのぜんざいも頂いた。秋の天満宮祭りでは、ﾎｰﾑの駐車場がお旅所になっており、巫女さんが踊って下さっている。ﾎｰﾑ主催の秋の音楽祭や夏祭りには、地域の方が沢山来て下さり、小中学生の体験学習では一緒にﾄﾗﾝﾌﾟなども楽しまれた。市民清掃には利用者も参加している。 | 年に1回、系列ﾎｰﾑに保育園児が来られるので、一緒に参加させて頂いている。子供達と交流される表情が嬉しそうで、楽しいひと時を過ごされている。今後は、地元の保育園児と交流できる機会を検討していく予定である。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 市民清掃やホームの行事への参加を呼び掛けたり小中学生の訪問や体験学習の受入れを行うことにより、認知症の理解や支援方法を地域の人々に向け生かしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 入居者状況、日頃の取り組みを報告し、意見を頂いている。またご家族や行政、地域の方より色々な情報や意見を頂き、サービスの向上に生かしている。 | 2ヶ月に1回、法人内のﾎｰﾑと合同で開催している。利用者の状況と合わせて、熱中症対策や災害対策のホームでの取り組みを報告すると共に、勉強会も行われ、参加者の方から意見やアドバイスを頂いている。町内会対抗のﾊﾞﾚｰ大会等の地域行事も教えて頂き、地域交流のための参考にさせて頂いている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 挨拶をしたり、運営推進会議に参加してくださった時、入居者状況や施設の取り組みなど報告している。 | 更新時には本部の事務の方が窓口に行かれている。運営推進会議には地域包括の方や広域の方が参加して下さり、『みてみよかい』と言う地域包括発行の新聞等も紹介して下さっている。介護保険制度の情報も頂き、報告書の書き方が不明な時は広域に相談し、親身にアドバイスをして下さっている。 | 各ホームの運営推進会議で出された意見を、市役所の方が把握している事もあり、各ホーム共通で挙がっている内容等を教えて頂き、今後の取り組みの参考にしていきたいと考えている。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | あってはならないことと認識し、言葉一つでも身体拘束にあてはまらないか考え職員同士注意しあいながらケアに取り組んでいる。 | 毎月の目標を決めて、”身体拘束のないｹｱ”に取り組まれている。取り組みの評価も行い、評価結果はﾎｰﾑ内に掲示し、職員の振り返りに活用している。感情不安定が見られる時は職員が寄り添い、外出傾向の強い方には散歩などにもお連れしている。ご本人に応じた声かけにも配慮している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 研修への参加や、各棟身体拘束委員を設け月1回会議を開き、目標を掲げ取り組み防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在は必要な方はいません。研修会に参加している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 見学を行って頂き、ご家族が十分に納得されるよう説明している。 | | |
| 10 | （6） | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時に何かございませんか？と聞きとる。要望などがあったときは代表を含めて話し合いをしている。 | 移転の時には家族の方も協力して下さった。家族からの意見を大切にしており、家族から「結婚式に参加させたい」と言う希望があり、2名の職員で長崎市までお連れした。集合写真にも参列でき、短い時間ではあったが式にも出席する事ができた。ご本人と共に、家族や親せきの方も喜んで下さった。 | |
| 11 | （7） | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月一回の職員会議を行い、個々の職員が意見や考えをのべる機会を設けている。また、毎日の申し送りやショートミーティングで意見を聞き反映させている。 | 管理者会議や職員会議、各担当者会議などで、職員の意見を聞く機会が作られ、“記録に時間がかかる”と言う事で、日々の記録（施設計画実行表）も改良された。「廃品回収に来て下さる子供達にｼﾞｭｰｽ等を振る舞い、利用者と交流する機会にしていきたい」言う意見も取り入れ、代表や管理者、職員で様々なｱｲﾃﾞｱを出しあった。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各職員が違う生活環境に合う労働条件に配慮した勤務条件で働けたり、資格手当や各担当者手当をつけて下さり各自が向上心を持って働けるよう取り組んでおられる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内研修を年に数回開いてくださり勉強する機会を設けて下さる。また各研修にも参加を促し、働きながらの資格取得にも指導をされている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会やスポーツを通しての親睦会など計画してくださり、同業者との交流する機会を作りサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 意思疎通の出来る方に関してはコミュニケーションをとり聴き出し、出来ない方に関してはご家族に記して頂いた基本情報をもとに不安要望などを把握し本人様の安心を確保できるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の困っていること、不安要望など真剣な態度で話を聞き、なんでも話ができるような関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人やご家族とコミュニケーションをとったり、基本情報やアセスメントを行い、まず必要とされている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応を心掛けている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | その人らしさを大切に、出来ること出来ないことを見極め手伝ってもらったり出来ないことにはお手伝いさせていただきながら、暮らしを共にする同士の関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月のお手紙で、一か月の様子を伝えたり健康面では電話連絡をし、本人を支えていく関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会に来て下さった際、自室でゆっくり会話をしていただき、いつでも面会できることを伝え、また自宅訪問し仏壇やお墓に参る支援をしている | 利用者の馴染みの場所は”山”と言う方も多く、山に一緒に行き、筍掘りや山菜採りを楽しまれている。「八幡神社に行きたい」と言う方もおられ、長距離の歩行が難しい方は、車の中からお参りされている。家族や知人の方も気軽に面会に来て下さり、お茶を出して、ゆっくり過ごして頂いている。馴染みの美容室にも行かれている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 各利用者の性格を把握し、気の合う方同士座っていただいたり、トラブルが生じないよう利用者同士が関わりあいを持って支えあうよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 施設の行事への参加を呼び掛けたり外出時あった際、どうされているかを尋ねたり遊びに来て下さるように呼びかけている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | コミュニケーションをとり、希望・意行の把握に努めている。また家族に尋ねたり会話や行動の中で本人の意向を把握している。 | 利用者がどのように暮らしていきたいか、どう思っておられるのか等を尋ねており、ご本人から教えて頂く機会が増えている。意思疎通が難しい方は家族に尋ねたり、利用者の表情や行動から気持ちを汲み取り、その方の立場に立って考えるようにしている。家族の面会時にも意向を尋ね、希望に添えるように努めている。 | 今後も引き続き、職員の観察力を深めながら、ご本人の行動の原因にも目を向け、記録に残していく予定にしている。記録の書き方の勉強も、継続していきたいと考えている。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 基本情報や本人とのコミュニケーションやご家族からお話を聞くことで、これまでの暮らし方、生活環境に努めホームでも継続できるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の過ごし方など、介護記録・申し送りなどで把握するように努めている。またその日の表情やバイタルなどでも把握するように努めている。 | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画は担当制にし毎日の日常記録の情報を基に作成する。また家族の意向も取り入れ作成する。キーワードを定め、毎月モニタリングと評価を行い職員会議で意見を出し合い現状に即した介護計画を作成している。 | 日々の記録に計画を手書きしており、担当職員を中心に全職員でケアの振り返りをしている。血糖値を正常値に近づけるために、ご飯の量を決め、蛋白質の多い食材を使うなど、健康管理の視点も大切にしており、洗濯物たたみや茶碗拭き等の役割も盛り込まれている。今後は3表（日課表）も作成していく予定にしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日常の生活の様子や体調の変化、表情面を個別に具体的に施設計画実行表に記録し、全職員が共有しながら介護計画のキーワードに沿ったケアを実践するように心がけている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 病院受診やご家族内の行事にも参加できるよう努めている。利用者の体調に合わせ柔軟に対応できるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 家族や地域の方々、また馴染みのお店など気軽に出かけたりボランティアや学生や児童の訪問を受け利用者が心豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的にはかかりつけ医に受診してもらう。かかりつけ医がない利用者に関しては、当事業所の協力医にお願いしている。 | 職員が受診支援をしており、家族と病院で待ち合わせをし、一緒に主治医の話を聞かれる家族もおられる。状態変化時は電話で報告し、定期の受診結果は毎月の手紙で報告している。24時間体制で主治医とホームの看護師（代表）に相談ができる体制もあり、夜中も往診をして下さっている。毎週、訪問看護も受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 少しの異変でも代表が看護師の為相談し指示を仰ぎ受診が必要であれば速やかに主治医へ連絡して受診している。週一回の訪看に一週間の状態をこまめに報告している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 担当Drや看護師との情報交換を密に行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 早い段階から本人、ご家族の意向を尋ね、事業所で支援できる範囲内を説明し、方針を決めている。またその時期には再度話し合いチームで支援に取り組んでいる。 | 希望があれば終末期ケアを行っている。「最後はここで」と言われる方もおられ、病状の変化に応じて、ご本人や家族の意思を確認し、医療機関との話し合いも続けている。協力医療機関の先生も24時間体制で協力して下さり、「ホームで終末期ケアをしてくれるので有難い」と言うお言葉を頂いている。職員の観察力も深くなっており、早期対応に繋げる事ができている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを作成しいつでも見れるようにしている。また研修会にも進んで参加をしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | しっかり訓練をすることで、避難する方法を身につけるようにしている。また消防点検票を職員でチェックすることで、家事を出さないように心がけている。 | 毎月、各棟の代表（男性職員）が災害対策を検討しており、地域の避難訓練にも参加している。2月に1回、昼夜想定で自主訓練を行い、年2回は消防団・消防署・地域の方・利用者と、3棟合同の避難訓練をしている。災害に備え、災害ﾊﾞｯｸや独自の持ち出し品なども準備しており、持ち出し訓練もしていく予定にしている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の人格を把握し、人生の先輩である事を常に頭に置き、敬愛の気持ちを持って言葉かけや対応をしている。 | 島原の優しい方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さにも注意している。利用者と話す時は親身に聞き、ご本人が優越感に浸られるような対応を心がけ、1人1人に応じた声かけをしている。職員個々の感情が利用者の行動に影響するので、常に冷静に、落ち着いて、毎日穏やかな気持ちで過ごすように努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の希望を尋ね、自己決定して頂けるよう言葉かけを行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 急がずゆっくりとその方のペースで過ごしていただけるよう心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で選ばれている。またできない方には、その人に会った髪形や服装をしていただくよう心がけている。また、行事の時にはお化粧なども支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | メニューは決まっていないので、食べたい物を尋ねたり、野菜の下ごしらえを手伝ってもらったり盛り付けや後片付けも手伝ってもらっている。 | 調理専門の方がおられ、1日と15日には赤飯と刺身を食べて頂いている。旬の物や食材を多く使い、彩りにも配慮し、日々美味しい料理が作られている。利用者の方もゴマすりや野菜の皮むき、片づけなどを日課として手伝って下さり、郷土料理の具雑煮、だご汁も喜ばれている。よもぎ餅や桜餅なども手作りされている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 旬の物をふんだんに取り入れ、栄養が偏らないように利用者にあった状態の食事を提供している。またこまめに水分補給も行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は必ず歯磨きを行っている。出来ない方には職員が対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄票を利用し、定期的な誘導を行っている。また、歩行訓練を行うことによりスムーズに立位され行くようになられている。 | できる限りﾄｲﾚを使用し、着脱なども、できる事はして頂いている。失禁時も小声でトイレに誘導し、ﾊﾟｯﾄﾞ交換をしている。利尿剤を服用されている方に、15分・30分・1時間と時間を見てトイレ誘導を行った結果、失禁が減り、ﾊﾟｯﾄﾞの使用枚数が減った方もおられる。ﾊﾟｯﾄﾞ使用の有無も、個別に職員間で検討している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄表で排泄パターンを把握し、食材で野菜を献立に多く取り入れる。また運動を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 毎日入浴できるようにしている。各利用者のタイミングに合わせて入浴を支援している。 | 時間帯や湯温などの希望を大切にしており、洋服を脱ぐ時もﾀｵﾙをかける等の配慮をしている。入浴を拒まれた時は理由を把握し、時間をおいて声かけする等、ご本人のお気持ちを大切にしている。入浴時は昔の話をして下さり、柚子湯や菖蒲湯も楽しまれている。できる所は自分で洗って頂いている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調や、希望に応じて昼間自室や畳みの部屋にて休息して頂いている。また昼間活動的に過ごしていただくことで安眠につなげたり冬場は湯たんぽなどで対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 投薬管理表を作成し全職員がいつも目に通せるようにしている。服用時には介助や職員が確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の楽しみなどをしっかり把握し、レク活動などを多く取り入れている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日々利用者の体調に合わせドライブ、買い物などよく出かけている。また、紅葉や花見など少し遠出することもある。本人の希望により墓参りの支援をしている。 | 日々の外出が日課であり、ご自分から車に乗り込まれている。1日2回外出する時もあり、外出時間に応じて、昼食時間も柔軟に変えている。季節に応じた花見（つつじ、コスモス、紅葉、桜など）と共に、海や山のドライブを楽しまれ、普賢岳を見ながら、「緑になったね」などと会話が弾んでいる。買い物も一緒に行き、果物などを選んで下さり、島原市内の足湯も楽しまれている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理が出来る方が今はいらっしゃらない。希望があれば、ご家族と相談し一緒にお買い物へ行けるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 子供様への電話や贈り物のお礼など手紙と一緒に写真を同封したところ大変喜ばれた。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節イベントの飾り付けを皆さんと一緒に行ったり、季節の花を飾ることで季節感を感じていただいている。また部屋の温度調整をこまめに行いすごしやすい環境になるよう心がけている。 | 新築した時に、新しい中にも昔の風情を残し、ﾄｲﾚの戸や食器棚も木目を活かした造りにするなど、懐かしさを感じる設計になっている。天窓もある明るいﾘﾋﾞﾝｸﾞには、移転前に使用していたﾎｰﾑの表札が掛けられ、対面ｷｯﾁﾝからはﾘﾋﾞﾝｸﾞ全体を見渡す事ができる。ｿﾌｧｰでお昼寝をされる方、和室で洗濯物を畳む方、大好きなﾐｶﾝを食べられる方など、思い思いの場所で過ごされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合う同士で座って、テレビを観賞されたり等思い思いに過ごしていただいている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室に使い慣れたタンスなどを置かれたりと自宅での生活に近付けた支援を行っている。 | 利用者の方々に新しいﾎｰﾑに慣れて頂くため、移転する前から数回見学にお連れしていた。ご自分の部屋も選んで頂き、完成を楽しみにされていたため、移転後も大きな混乱は生じなかった。和と洋でﾄﾞｱを変え、お部屋の間違いがないように工夫しており、箪笥や鏡、お位牌などを持ち込まれている方もおられる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 広々とした空間があり、動きやすくトイレなど分かりやすいように目印を付け、廊下には手すりがあり、安全で自立した生活が送れるように工夫している。 | | |

事業所名：グループホームふるさとの家「城下」

# 目標達成計画

作成日：平成　25　年　2　月　28 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

**【目標達成計画】**　注)「項目番号」の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。

| 優先順位 | 項目番号 | 次のステップに向けて取り組みたい内容 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 23 | ご本人の行動の原因にも目を向け記録に残していく。記録の書き方も勉強し継続していく。 | 利用者の思いを会話で読み取り、5Hを考えながら記録に残す。 | 日常の記録の仕方を、職員会議で話し合う。5Hを用いた記録の勉強会を行う。 | 3　ヶ月 |
| 2 | 2 | 年に一回系列ホームで保育園児との交流をしているが、今後は地元の保育園児と交流していきたい。 | 子供達との交流を多く取り入れ、利用者に楽しい時を過ごしていただく。 | ①近くの保育園に交流の呼びかけを更に一層していく。 ②各イベントに保育園児も参加して頂くようお願いに行く。 | 6　ヶ月 |
| 3 | 5 | 運営推進会議で各ホーム共通で挙がっている内容を教えていただき、今後の取り組みの参考にしたい。 | グループホーム連絡協議会で、運営推進会議で出た色々な意見や報告を取り上げていただき施設の発展に繋げる。 | ①連絡協議会で、行政に働きかけてもらう。<br>②運営推進会議の中で、行政出席者に意見をもらう。 | 12　ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |